

災害ボランティア活動報告 (No.25)

活動場所:宮城県亙理郡山元町作田山 (被災農家: 斎藤様の農地)

活動内容:今回は、男性陣の背の高い方は、パプリカの茎のクリップ留。高いのだと 2メートル位になります。実がなるとクリップ留をしていないと倒れてしまい、それでネットにクリップで止めるわけです。あと、草取りとビニールハウスのパイプの片付けをして頂きました。女性陣はビニールハウスでパプリカの地面から 50 cm位までの葉っぱ取りです。風の通り道を作らないと湿気で駄目になるそうです。病気にもなりやすく、なってしまうと、その畑は当分使えなくなるとの事。手間ひまかけて心をこめて、野菜が出来ます。

参加者:メンバー (木下史典、森本次郎、若林英樹、岩瀬清、榎戸孝行、大石珠希、浅野健一、佐伯裕二)、一般参加、ネット参加の皆様。(合計 25 名)

活動報告:夏休み『親子で震災ボランティア体験』in MIYAGI、ボランティアバス第 11 弾です。今回も『ボランティアの成果が見える、足跡の見える支援』を心がけているため、斎藤様の農地に行かせて頂きました。

行程:総勢 25 名で、9 月 27 日金曜日の夜に、千葉県四街道発で、西船橋駅、錦糸町: 錦糸公園経由で現地山元町へ向かいました。内 1 名は仕事のため車で駆けつけてくれました。今回は 25 名と、今までで参加者が一番少なかったです。震災の風化が怖いですね。

9 月 28 日土曜日、今回も朝食を吉野家で取りました。安いし早朝から営業しているのはここだけです。その後、建物の保存が決まった旧中浜小学校を視察しました。遺構として残すことになったのは、ここだけが死亡者がいなかったからだそうです。



※今回参加された 25 名の皆さんの集合写真です。(被災した旧中浜小学校前。)

※下段写真：被災現場の旧中浜小学校前に慰霊のための東日本大震災慰霊塔（千年塔）の碑が建っており。そこで偶然地元の語り部の方に会い、当時の悲慘な状況など語って頂く。初めての参加者の方は、被災者でも有る語り部の方の話に聞き入っていました。



※下段の写真：左はビニールハウスの骨組みのパイプの片付けです。台風で壊れたビニールハウスの骨組みを片付けています。農家は大変だとつくづく感じます。津波もそうですが自然の前では無力ですね。

親子で参加のお母さんが、『食べ物を無駄に出来ないですね。』と言ってくれました。農家の方々が、手間ひまかけて心をこめて作ってくれた『農作物』一つとして無駄にできないことを子供たちが学んでくれるだけでも【ボラバス】には価値があると確信しています。

右は、ビニールハウス周りの雑草を草刈機で刈っています。雑草の成長は早いんですね。手をかけないと、すぐ雑木林のようになってしまいます。自然の息吹、生命力が感じられます。人も見習わなければなりませんね。

私たちが津波や台風を負けていられないです。





※上段：左写真：パプリカの実がたわわになっています。高いのだと 2 メートル位になります。ですので、クリップ留は必須うです。

右写真：女性の方々はパプリカの地面 50 cm までの葉っぱを風通りがいいように、剪定して頂く。



今回も、斎藤さんから採れたてのパプリカをご馳走して頂きました。採れたてはジューシーでありフルーツのようです。お土産にももらったのですが、時間が経つと若干味が落ちますね。現地で食べるのが最高です。ボラバスの参加者の方は味わえますよ。

作業が終わりスイカのご馳走（写真上段）を頂く。甘くてとても美味しかったです。いつも心遣い有り難うございます。片付けが終わり一路東京・千葉へ。ミッション完了です。皆さん、12 月も斎藤さんの所にお伺いします。いつも新しい発見が有る【ボラバス】です。皆様のご参加お待ちしております。